

## 下関西LC： 災害事故初期救助心肺蘇生法（FACDA）特別委員会について

### 災害事故初期救助心肺蘇生法（FACDA）委員会

FACDA（災害事故初期救助心肺蘇生法）特別委員会設立のきっかけは、下関西LC例会に卓話でお呼びした救急救命士の話を聞いた時でした。話の中で、市内で救急要請の電話があって現場に救急車が到達するまで平均約5～6分かかり、救急隊員が到着するまでのこの短い時間に現場に居合わせた人たちの適切な処置により（心臓マッサージなど。早ければ早いほど、脳に対するダメージは少なくてすむ）、助かることのできる命がたくさんあるとのことでした。この話を聞いた時使命感みたいな感動を覚え、早速当クラブの理事会にFACDA特別委員会の設立を図り、全員一致で承認を得られました。

では、我々FACDAは現在実際にどういう趣旨でどういう行動をとっているかを説明したいと思います。まず適切な処置とは？それはすぐに誰でもできるわけではありません。それなりに講習を受けて知識を得なければ無理ということが分かりました（この後当クラブのFACDA委員会のメンバーは、心臓マッサージとAEDの扱い方の講習を正式に受けております）。参考までに、ドイツなどでは、小中学生ぐらいの子供たちが止血、心臓マッサージなどの応急手当の仕方をそれなりにできるレベルにあると聞きました。そこで市民の方々に広くこの初期活動の重要性を知ってもらい、その対処の仕方（心臓マッサージ及びAEDの使い方）を啓蒙していけば、全国の中でも事故災害遭遇時に対処できる認知度の高い人々がいるモデル地区になるのではないかと思います（安心安全の町）。また、このような活動を通じてとりわけ子供たちには命の大切さ、重さを体験してもらいたいと考えます。重ねて申し上げたいのですが、事故災害に誰でもいつ遭遇するか分かりません。そのためにも救急車が来るまでのわずかな時間の初期処置をゆくゆくは市民誰でもできるようになれば、尊い命が救われる可能性が上がると思われます。この啓蒙活動は、我々下関西LCの呼びかけで下関市→山口県→全国各地→世界各地に伝えていければ喜ばしいことと考えます。また、夢でもあります。

“あなたしか助けられない命がある”。その事故災害の現場に遭遇した人が119番連絡併せて初期処置→救急隊員→医師、これはまさに命のリレーだと思えます。このFACDA特別委員会を ご理解の上、広く皆様に伝えていきたいと思えます。

